



本派六百五十回大御遠忌図（部分）

龍谷叢書 59

# 近代本願寺絵図と 観光地京都

近代の東西本願寺の歩みを、豊富な絵図・写真を用いて解説。  
「京都学」の学習・近代仏教史研究の必携書。

## 刊行の言葉

明治期以降、急速な鉄道の発展により、多人数の高速輸送が可能となった。しかし、観光旅行がそれほど一般化していない状況にあって、寺院参詣の乗客は私設鉄道会社にとっての大きな収入源であった。とくに関西圏の鉄道各社の経営陣には、東西本願寺の有力門徒が就任し、創業時から両本願寺の参詣者に団体割引を行い、各種法会や彼岸の際に臨時列車を増発し、後に官設鉄道もこれになった。

鉄道整備がすすんだ日清戦争後には、大規模な法会が次々と執行され、多くの参詣者が京都に集まり、両本願寺門前は異様な熱気に包まれた。さらに日露戦争後、鉄道国有法が公布、鉄道院が設立されると、団体参詣もはじまった。こうして両本願寺の法会は、京都に多数の参詣者をもた

らし、東京遷都により衰微した京都を観光地として経済的に活性化させる上で、大きな役割をになった。

法会に際して、その予告や記念品のために作成されたのが、法会絵図であった。法会絵図は、明治末以降、次第に写真帖・絵はがきなどへと移行していったが、明治・大正期には数多くの法会絵図が作成された。そこから、本願寺法会に結集された信徒たちの膨大なパワーと熱気、近代の日本社会に与えた影響力の大きさを感得することは可能であろう。

本書は、2023年に親鸞誕生八百五十年・立教開宗八百年を迎えるのを記念して、明治・大正期の本願寺法会絵図とともに、真宗施本事業の変遷を図版入りで紹介して解説を付したものである。



立教開宗七百年法要記念



大谷派本願寺三大門再築記念図

中西直樹 著

B5判オールカラー 148頁・コデックス装  
定価本体3,800円＋税 2022年9月刊行

三人社



